

株式会社ルンルン

【企業主導型保育】ルンルンルーム

(東京都江東区森下3-13-5 ゴーベルビル2階)

【いい保育士って、どんな保育士？ いい保育って、どんな保育？】

☆保育士自身が心から笑っているからこそ、子どもが楽しめる

保育士の心情は、いいも悪いも全て子どもに伝染すると思っています。保育士がワクワクしていれば、子どもだってワクワクする。気分が落ちていけば傍を離れていく。なので子どものために、できればいつも心から笑っていたい。そのために、まずは一人ひとりやりたい保育を形にすることです。自分の意志だからこそ、計画も反省もしっかり行い成長幅も大きいですし、何より楽しい。保育士を志したからには皆、何かやりたいことがあったはず。どんどん持ち寄り、保育を楽しんでほしいです！

☆家庭ではできない経験を

たとえば、五感をたっぷり刺激する感触あそび。家が汚れるのは嫌だし準備も大変...というものを、園では存分に取り入れています。寒天、片栗粉、スライム、子どもたちは大喜びです。そしてそれだけでなく、小麦粉を踏んでうどんを作ったり、大豆をつぶして味噌を作ったりと、あそびから食にも繋げています。そうすると喜びも倍増です！

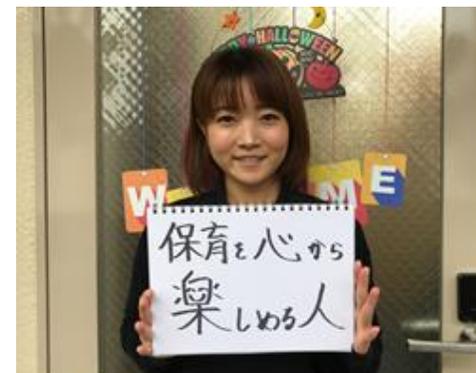


【目指しているのはこんな園】

☆保護者が本当に求めていることって...？

おかげさまで、当園はつねに満床です。今後も選ばれ続けるために必要なこと、それは何も特別なことでも華美なものでもなく、基本に立ち帰り、保護者への「丁寧な寄り添い」だと思っています。送迎時の対応は一人ひとり心を込めて行っています。そうした中で家庭での悩みも打ち明けてくださり、二人三脚で子どもと向き合っているのです。当たり前のことかもしれませんが、その当たり前をどこまでしっかりやれるか。未だ保護者から大きなクレームを受けたことがないのは、日ごろからの保育や丁寧なやり取りの積み重ねがあってこそだと信じています。

【私が参加します！】



保育を心から楽しむには、保育士自身の気持ちが安定していることも欠かせません。そのために、職員一人ひとりと月1回1時間ほどかけて面談をしています。私はひたすら聴き役で、肯定することを大事にしています。すると職員はまた自信を取り戻して現場に戻っていくのです。また、皆の意見に耳を傾けるからこそ新しい発見があり、私自身が学ばせてもらっていることはとても多いです。（園内の製作物や掲示物、手作りのシアターなどを差し、）あれも、これも、全部先生たちの案なんですよ！

(園長 野口 叶(かな)さん)